



Vol.3
Think!
企業スポーツ
 日本でのスポーツ普及において
 企業の果たす役割は大きい

女子バスケットボール トヨタ自動車アンテロプス

聞き手／武藤泰明

Point of View

会社と社員のための スポーツチームを確立

最大の驚きは、代表クラスの選手をこれだけ擁しているのに、チームに「会社からの孤立感」がないこと。おそらくトヨタの他種目のチームも同じであろう。会社と社員のためのチームである。そしてそれを実現するために、フロントがものすごく考え、努力している。企業スポーツはこうすればよいというモデルであると思う。もちろん、頭で考えれば理解できるが、実行は簡単ではないというのは、トヨタ生産方式と同じ。(武藤)

武藤泰明(むとう・やすあき) 早稲田大学スポーツ科学学術院教授。東京大学、同大学院(修士)卒。三菱総合研究所首席研究員を経て現職。専門はマネジメント。

連載第3回は、トヨタ自動車の女子バスケットボール部「アンテロプス」の清野部長を訪ねた。

武藤 トヨタにはさまざまな運動部がありますね。

清野 トヨタが力を入れているのは男女バスケット、野球、ラグビー、女子ソフトボール、長距離陸上です。我々、女子バスケットの拠点は名古屋です。その他、男子バスケットは東京、長距離陸上は田原工場、それ以外は豊田市本社というように、各地にクラブを置いて応援するスポーツチームが身近にあるようになっていきます。

武藤 女子バスケット選手の配属部署はバラバラですね。

清野 各部分に分かれているのは、社のみならず応援してもらおうためです。選手が所属部署で近況を話すことで、女子バスケットを身近に感じてもらう、とおかげでよく声を掛けられますし、熱狂的なサポーターもいます。豊田市や岡崎市でのホームゲームは職場応援ツアーもあります。

武藤 オフィス全体でチームを応援しつつ、部署ごとに応援する選手が決まっているわけですね。すごい工夫だと思えます。さらにディーラーさんのネットワークも全国にありますよね。

清野 地方でゲームがある時は、顧問が国内営業・販売店の担当役員でもあるので、各地の販売店の人に声を掛けています。

武藤 女子バスケット部に対して、トヨタ社、企業スポーツの管理者、チーム、それぞれの観点からどのような目標を立てていますか。

清野 トヨタ社としては現在は順調ですが、数年前はリーマンショックやリコール問題もありました。社内でもよくいわれているのは「あの時、運動部が元気をくれた」ということです。タイミングが良かったのかもしれないですが、その頃、野球と女子ソフトの優勝から始まり、男子バスケット、女子バスケットと連続で優勝しました。社長も「暗い状況の中で明るい話題を提供してくれたのは運動部だ。だからしっかり活動して企業スポー

ツの活性化につなげてほしい」とよく言っています。

武藤 チームとして目指しているところは？

清野 強いチームづくりはもちろん、日本女子バスケットの風土や文化を変えていきたいです。ヘッドコーチのドナルド・ベックもそうです。今まで女子はすごく管理されるところが多かった。その中でベテラン選手から自分たちで管理をしたという話があり、ルールも変えていって自己責任でやろうと。自己責任の意識が強くなれば、それがチームを強くする力になるのではないかという事です。そうして本当に強いチーム、みんなが憧れるようなチームができればと思っています。

また、地域への恩返しとして、昨年4月にサッカーのJFAと提携し、中京大と豊田市とトヨタ運動部で「夢先生」を行うことになりました。

武藤 夢先生を地域貢献プログラムとして活用するのはよいアイデアだと思います。選手にとっても憧れられる存在になる、尊敬されるために何をしていけばよいかを考えるきっかけになるでしょうね。本日はありがとうございました。

※ 現役のJリーグ選手や女子Jリーグ選手、他種目の現役選手、関係者などを「夢先生」として小学校に派遣。「夢を持つことの大切さ」「仲間と協力することの大切さ」などを子供たちに伝えていく。



せいひ・えいじ／中京大学卒業。1990年トヨタ自動車入社。90～97年同社男子バスケットボールチーム「トヨタ自動車アルバルク東京」でCF(センターフォワード)として活躍。12年から同チーム部長。15年7月より女子バスケットボール部の部長兼GMを勤める。

